

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270102098		
法人名	社会福祉法人 忠悠福祉会		
事業所名	グループホームせんじゅ園		
所在地	〒030-0011 青森県青森市篠田2丁目11番8号		
自己評価作成日	令和3年9月22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

契約の時点で看取り方針の説明をし希望される方が殆どです。介護福祉士の喀痰吸引資格取得者2名確保・常勤の看護師1名配置することで重度化に備えている。Dr往診週1回・訪問看護週1回と医療連携を密に図り健康管理に努めている。コロナ感染対策にて外出ができないため、お楽しみ会を設け、ゲームや昔の芋餅作りなどを楽しめるよう工夫した取り組みをしている。お掃除や食事の下準備などと一緒に行動して日々の生活を共にし安心していただいている。また分からない事など聞いたりと尊敬した姿勢でかかわりを持ち、信頼関係を深めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年10月28日		

市内中心部の市街地に位置し、すぐ前は幹線道路だが裏は公園になっている。徒歩で数分の場所に医療連携しているクリニックがあり、周囲には生活する上で必要な店舗・機関はたくさんある。コロナ禍で外出や面会の制限がある中、楽しく生活できるように、利用者の希望を聞きだして実践している。職員間のコミュニケーションも良好で、管理者は話しやすい環境作りをしている。また、医療機関との密な連携でこれまでに10回以上の看取りの実績がある。本人の理解者である馴染みの職員やいつもの環境で看取りを希望された場合は安心して頼める状況にある。退所された方の家族には事業所で作成した「思い出アルバム」をお渡しし喜ばれている。管理者はじめ、職員も明るくて話しやすく、笑い声が聞こえ、理念の一部「心と心のつながり」が感じられた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内に掲示し、毎月の職員会議で唱和することで理念の意義を理解し、共有し実践につなげている。	職員は理念を理解し心に留め置き、ケアする際には理念に基づき「健康」「自分らしさ」「心と心のつながり」を大事にしたケアを行っている。何かあった際には、理念の意味を考え振り返りしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルス感染症防止のため、地域との交流が難しい状況にあり。裏の公園で地域の方々との挨拶を心がけている。	コロナ禍で交流に制限があるが、町内会に加入し、事業所の便りを回覧板に載せて地域の方に活動を理解していただけるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	季節ごとにせんじゅ園だよりを発行し、施設内の取り組みや活動を載せることで認知症の理解を得ている。また		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在 会議自粛中であり、施設内の取り組みや活動内容を資料にて報告することでご意見を返送して頂き、サービスの向上に活かしている。	コロナ禍前は町内会長、民生委員、地域包括支援センター、市役所職員の参加があり、会議を行っていた。今年10月は全員は揃わなかったものの会議を開催し、事業所の活動や状況を報告し、意見をいただいた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護保険課・国保連・地域包括支援センターに問い合わせをし、積極的な取り組みをし協力関係を築いている。	事業所の運営などで分からないことがあれば、市役所に電話で問い合わせ確認している。何でも聞きやすい関係性であり、聞いた内容は記録として残している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加後(リモート)身体拘束廃止委員会にて禁止の対象となる、ベッド柵・車いす使用者をリストアップし、具体的な行為を正しく理解できるよう勉強会を開き、また外部からのPT訪問時に相談・指導を受け、状況を把握したケアに取り組んでいる。	外部研修の参加や伝達研修、また、法人内の勉強会で拘束について意見や情報の交換を行い、職員は各自拘束について理解しており、事業所内の拘束はなく、拘束しないためのケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、職員会議や委員会での勉強会で不適切な介護をしない取り組みを行うことで各自が意識をし、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加、職員会議での勉強会を通して学び、必要時支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をし同意を得て入居して頂いている。不明な点はその都度お答えし不安のない生活が送れるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の資料を送付し、ご意見に対し話し合い改善に向けて取り組んでいる。コロナにて面会制限ありますがご意見を聞き、ケアプランも含め意向を伺い反映させている。	玄関に意見箱を設置しているが入っていることはなく、家族の面会時に日頃の状況報告する際に意見をいただくように対応していた。コロナ禍で家族の面会制限下では困難なので、受診後の報告時に聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者との個人面談を年2回実施、また職員会議などでも意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。	個人面談や会議以外の場でもいつでも職員の意見は受け入れている。これまでに、入浴時の補助具の購入や利用者の席替えなど、提案されたことは皆で相談して実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や実績を把握し、向上心を持って取り組み、働きやすい職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の配分された任務・業務に合わせた研修(リモート)に参加し勉強会にて発表することで、より深く理解できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染対策で中止となっているが、リモート・テレワークなどで交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を把握し、また事前見学をすることで環境や雰囲気を確認していただいている。困っていることや不安などについて聞き取ることで安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること、不安なことを傾聴し要望等に応えられるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ADL・メンタル面などを聞き取りアセスメントし把握した上でニーズを見極め、適切な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入浴後の洗濯物たたみ、食器拭き、掃除などを職員と行う事で、暮らしを共にする物同士である関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「日常報告書」「ケアプラン」「せんじゅ園だより」などで家族へ情報提供し、面会で意見を伺ったり必要物品等を依頼し持参して頂いたりと家族との絆を大切に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会、家族との外出等を行っていたがコロナとなり現状では行えていないが、コロナの収束の目途がたてば再開をする方向です。	最近ではコロナが落ち着いてきたので面会の希望があった場合、10分程度の短時間で面会を再開し家族も本人も喜んでいる。行きつけの美容室に行きたい方は家族の協力をいただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の会話や表情を観察し、そして個人の性格を把握しテーブルの配置などに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じ、気軽に相談できるよう心掛けている。退所時手作りのアルバムをご家族に渡し喜ばれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室内に仏壇や遺影を置いている方が2名。その他に神仏を置き念仏を唱えている方1名。テレビを設置している方3名。それぞれ個々の希望に対応している。	外出困難になった昨今は利用者の楽しみとして「誕生会」を活用している。好きなメニューやケーキを聞き用意して喜ばれている。利用者の現在の希望は「外出・外食」なので早く叶えられるようにしたいと職員は思っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方である生活環境を続けられるよう配慮し、サービス利用の経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で静養する方・テレビを見る方・新聞、雑誌を見たりラジオを聴くかた自由に過ごされている。活動時はリビングにて余暇・リハビリ・軽作業などを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月末にケアプラン実施表にまとめ、また総合評価にてモニタリングを実施。職員会議にてケアカンファレンスを行ない適宜見直しをし、ケアプランに反映している。また家族の意向やDr.・訪問看護・PTからの意見を取り入れ介護計画を作成している。	ケアプランは担当するスタッフ含め3人で作成している。また、短期目標の実施状況はチェック表を活用し、モニタリングはすぐに確認できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察から状況を個別ケースに記入。日常生活報告書等の記録を参考に情報を共有し見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染対策にて面会や外出等できていないが専門医受診の付き添いなど柔軟な対応ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生及び社会人の職場体験やボランティアの踊り・歌などの慰問を受け入れていたがコロナにて中止としている。行事では職員による余興などを楽しみ豊かな暮らしを送れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が希望されるかかりつけ医となっている。週1回のDr往診と訪問看護あり、医療機関との連携を密に図っている。また 緊急時にも即対応し適切な医療を受けている。	医療機関との連携では、事業所に看護師が勤務され、夜間の急な体調不良でもかかりつけ医が来所してくれるため、家族は安心している状況である。新たに専門医を受診する際には家族と相談している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタル測定を行い健康管理に努めている。、異常みられる時は職場の看護師又は訪問看護・Drに伝え相談をし適切な支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はかかりつけ医の紹介状作成、各病院の医療連携室相談員や家族と情報交換を行い相談に努めている。また早期に退院できるよう病院と連携を図りより良い関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の看取りについて説明し、事業所でできること、在宅酸素の使用・点滴施行・ご家族の付き添い等について話し合うなど方針を共有し、穏やかな最期を迎えられるよう取り組んでいる。	看取りに関してはこれまでに10回以上の実績がある。看取りの研修も受けており、事業所としては家族が安心できるように随時詳細な説明をしている。医療との連携も盤石であり、コロナ禍の前は家族の宿泊も対応していた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、マニュアルを参考に勉強会を開き身に付けている。また心不全の方の発作時の対応について、薬の使い方・ミオコールスプレーの使い方について職員会議にて確認し合い実勢力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いの下、避難訓練を実施。今年はコロナにて地域住人は参加せず。地震・水害時の対応は施設内の研修を行い、避難先の確認や手引書を作成し確認を行い体制を整えている。	避難訓練の定期実施はもちろん、災害マニュアル、緊急連絡先も随時確認できるように用意されている。事業所が立地する地域をハザードマップで確認している。備蓄は3日分の用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ内にカーテン設置・居室でのオムツ交換は引き戸を閉めて対応。また トイレ介助時は排泄後ご本人に拭いて頂く等プライバシーを損ねないよう配慮している。	プライバシーに配慮し、トイレ誘導の声かけは傍に行き気持ちに寄り添うように話している。利用者と呼ぶ時は必ず「〇〇さん」と呼び、個人を尊重した対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、余暇活動・軽作業などやりたくない場合は別の選択肢を準備し、無理強いせず、自己決定できる働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「お手伝いをします」「寝て居たい」「テレビを見たい」等一人ひとりのペースや意向に合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣替えを行い、行事や外出時はおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの食べ物や季節の物を献立に取り入れている。また 行事食はリクエストをいただき、のつけ丼・漬け丼・甘納豆たつぷりのお赤飯・等々の要望に応え、職員と一緒に食事を楽しみ、片付けも一緒に行っている。	メニュー作りは利用者の希望を取り入れ1月分を作成し、食材は3日分を購入している。野菜の下処理は利用者と一緒にを行い、職員が利用者と同じメニューを食べ楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・塩分の制限や大盛提供等、個人に合わせた盛り付けをしたを提供している。水分は食事の他に自由に飲めるようピッチャーを用意し自由に飲まれている。代替品や捕食なども行い栄養に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後はうがいに緑茶を使用し口臭消毒をしている。マウスウォッシュ・義歯洗浄剤を使用した口腔ケアを実施している。またうがい困難な方はがーぜを使いふき取りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排せつパターンを把握しトイレ誘導や声がけをしている。定時誘導の他にトイレ訴えれない方は仕草を見て適宜誘導をし失敗のないよう自立に向けた支援をしている。	オムツ使用は控え、リハビリパンツ使用を主とし定時に誘導し排泄を促している。排泄チェック表を活用し、便秘の方は看護師が対応している。メニューに果物や乳製品を取り入れており、「腸活」に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時は乳製品・野菜ジュース・ヤクルト・果物等を多く摂れるメニュー作りをしている。リハ体操なども行い予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴日は決まっているが一人ずつ個別に行い、本人の体調や希望により柔軟に対応している。ラベンダー・ハーブ・ドクダミ湯、ゆず湯などを楽しみ、季節を感じて頂いている。	筋力の低下した方は補助具を使用し、安心して入浴している。体力的な理由で入浴できない方はシャワー浴になるが、浴室の暖房設備もあり、かけ湯も多くしているので体が温まり満足している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	歩行訓練をしたから、腰が痛いからちょっと休みますと、休息は自由にされている。また居室にはブラインドを設置し、西日を遮り気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに処方箋を綴じ、薬の目的や副作用などを確認できるようにしている。症状の変化についてもDr・訪問看護師・施設の看護師に報告をし変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中から、得意分野を見つけ役割を持った取り組みをしている。歌・ちぎり絵・箱作り・季節に合った作品作りや雑巾縫い・食器拭き・掃除などを行い気分転換を図った支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナで外出を自粛し、戸外に出かけられていないが園内でお楽しみ会を設け、昔々作った団子・いも餅作りなどに挑戦したり、また ゲームなどを取り入れ活発に動くことで競争心を尊重しうっづんを晴らしている。コロナの状況を見てドライブを計画し出かける機会を見つけ気分転換を図れるよう支援している。	コロナ禍の昨今、外出は困難なので事業所の中で楽しめるように新しくゲームを購入したり、車外には出ないがドライブで外出し、季節を感じられるよう配慮している。利用者にとっても喜ばれ、次の計画もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設で管理し本人の承諾を得て必要物品を購入している。個人的に少額を所持し希望を叶えている。外出時の買い物などでは本人に支払いをしていただくも現在ではできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ電話をかけ安心していただいている。また 携帯電話を持っている方は、自由に家族や知人と連絡を取り会話され、疎遠にならないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインドを使用し採光調節をしている。居室やテーブルに季節の花を飾ったり、リビングには利用者の作品ちぎり絵を飾り、季節感を出している。エアコンや床暖・加湿器などを使用し適宜な室温を保ち、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	事業所内は清潔で掃除はゆき届いている。エアコン調節で湿度、温度も適切で、廊下は皆で協力して作成した「ちぎり絵」が飾られて、温かい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性に配慮した食席の配置をしている。利用者によっては別テーブルを設け一人で落ち着けるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切な物、家族の写真やアルバム・ラジオ・仏壇や遺影・使い慣れた和ダンス・テレビなどを置くことで安心され、居心地よく過ごせる環境整備に努めている。	利用者の機能に応じて、家具の配置がされている。家族の写真や遺影など、チェストの上に置かれ安心して生活できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室には写真入りの表札を、トイレもわかるよう表示し迷わないようにしている。ベッドの高さはPTの意見を参考にし、車椅子・歩行器・シルバーカー使用者はバリアフリーにて安全に移動でき自立した生活を送れている。		